

音楽の友

特集

世界の ディーヴァたち

—華麗なるその系譜を追う

世界の現役ディーヴァ「ベストテン」発表！

カラー

ピアニストだって冒険する（中村紘子）

Interview

マキシム・ヴェンゲーロフ

小山実稚恵 対談シリーズ「脱力の極み」

〈お客様〉羽生善治（棋士）

ライナー・キュッヒルの対談シリーズ“Walzer”

〈お客様〉ルドルフ・ブーフビンダー

私的音楽論考——指揮台から見えること（山田和樹）

アリス=紗良・オット～ピアニスト世界を巡る

指揮者の仕事場探訪 大植英次

特別記事

サイモン・ラトル ベルリン・フィルからロンドン響へ！

追悼 アルド・チッコリーニ

ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2015の歩き方

新連載

魁——世界の名門オーケストラへ

あの時あの場所で、実は……

ほか

Maxim Vengerov

ONGAKU NO TOMO



別冊付録

国内の演奏会&チケット情報満載

コンサート・ガイド

マウロ・イウラート

Mauro Iurato

●ヴァイオリン

取材・文=響 敏也



■公演情報

「ラボラトリオ・ムジカーレ」オープニングコンサート〈日時〉4月17日19時〈会場〉ザ・フェニックスホール〈出演〉UniDuo: マウロ・イウラート(vn)、ジュゼッペ・マリオッティ(p)〈曲目〉モーツアルト「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ」K.301、他

「ピュアモルトミュージック～Music from the bottle」〈日時〉6月13日14時〈出演〉マウロ・イウラート(vn)、ジュゼッペ・マリオッティ(p)、角家道子(fl)〈会場〉兵庫県立芸術文化センター(小)〈曲目〉ヘンデル「ヴァイオリン・ソナタ 第4番」Op.1-13他〈問合せ〉〈問合せ〉芸術文化センターチケットオフィス0798-68-0255

「心と身体を解放して自然に……」
各地でコンサートマスターを務める親日家

拠点とするワインと神戸はもちらん、各地で多彩な活動を続け、日本的主要オーケストラに客演のコンサートマスターとして招かれることも多い天才肌のヴァイオリニスト、マウロ・イウラート。愛機は、あのピニャーニが弾いていた名器だ。

「私はトリノに生まれたイタリア人。でも前世は日本人でした。間違いない。日本の生活様式にも芸術にも、限りない共感を覚えます」と

実地で学びとった深い知識が何気ない会話に続出して驚かせる。さらには、「同世代のイタリア人なら、誰もが日本のアニメを知っている。イタリアで放送しています。でも、あの三角の食物は何か? 日本に来てコンビニでおにぎりを見た時は嬉しかった」ことしで38歳という若さながら、その音楽的な奥行きは深い。技巧派の難曲を、いとも楽々と弾き去る。それでいて天性の「歌」の魂がふつぶつと沸き立つ。これまでに盟友ジュゼッペ・マリオッティと「UniDuo」

名義で2種のCDを発表、どれも技巧と音樂の心が共生して天上の言葉を伝える。これまでにF・グッリやアッカルドなどに師事。2枚目のCDに収録のフランクの「ソナタ」では、「私の先生グッリの父が、このソナタの初演者イザイの親友で、イザイから初演時の運弓や指使いを習つた。それが息子のグッリを経て、私に伝わっています。CDではそれを活かして演奏しています」

日本の理解者だが、それだけに日本の音楽教育には厳しい眼を向ける。そこで、ヴァイオリンを含めた音楽全般の教育に熱心だ。

「イタリア文化会館OSAKAでのマスタークラス『ラボラトリオ・ムジカーレ』を5月から始めます。心と身体を緊張から解放して自然に保ち、楽器の技術を極め、自由な演奏を可能にする……そのステップを体感します」

月1回のクラスだが、そのオープニング・コンサート《音楽史紀行》イタリアの真髄からワインの夕暮れへ》が開かれる。

高橋多佳子

Takako Takahashi

●ピアノ

写真=武藤 章

演奏会に馴染みのない人にも
楽しんでもらえる親しみやすいコンサート

リサイタルシリーズ「名曲達の饗宴」を東京の浜離宮朝日ホールで行つてゐる高橋多佳子が、急遽この4月に東京文化会館小ホールでもリサイタルを開くことになった。東京文化会館は日本でも有数の歴史あるホールであり、演奏会は1年くらい前には決まつてゐることが普通だが、今回は2月に急に話が来たという。

この2月末に話が來ての4月公演なので、どうしようか迷いました。10月3日の浜離宮もありますし。でも、いつも東京でするコンサートはどうしてもプログラムが固いものになります。ですから、せっかくのお話なので、今は普段から演奏会に行く方はかりではなく、あまり演奏会に馴染みのない人にも楽しんでもらえる思いつき親しみやすいコンサートをしてみようと考えました

なるほど、J.S.バッハ《主よ、人の喜びよ》、モーツアルト《きらきら星変奏曲》、ベートーヴェン「ソナタ第14番《月光》」、エリーゼのためにショパン「バラード第1番」、ガーシュウイン《ラプソディー!》

イ・イン・ブルー》と、クラシックの名曲であり、かつクラシックをあまり聴かないという人でも耳にしたことがある作品が並んでいる。

「以前大友直人さんのプロデュースで、青窈さんやチャゲさんの演奏会を東京文化会館の小ホールで聴いたことがあります。あの歴史ある空間で、ポピュラーのアーティストのライヴというのは本当に新鮮でした。理想的には、あんなつづりだ

たらと思います。難しいでしようけれど(笑)」

2015年はショパン国際コンクールの年もある。本誌連載で「ショパン・コンクールへの道標」を連載中の下田幸二氏とのゲスト対談と演奏もある。

「私がショパン・コンクール入賞者ですしおど今年がコンクールの年です。下田さんは(笑)……夫ですが、ショパン・コンクールを知り尽くしている人。ですからとても面白いお話を聞けるのではないかと思います。そちらもご期待ください!」



■公演情報

高橋多佳子ピアノコンサート《びあの☆ファンタジスタ》〈日時〉4月22日19時〈会場〉東京文化会館小ホール〈共演〉下田幸二(トーグ)〈問合せ〉03-5774-3030